

麻生区黒川のヤマトセンブリ *Sialis yamatoensis* Hayashi et Suda

窪田迅郎\*

Yamatosenburi *Sialis yamatoensis* Hayashi et Suda live  
in Kurokawa area Asao-ku, Kawasaki City

Hayao Kubota\*

川崎市麻生区黒川地区は、市の北西部に位置し、東京都町田市、多摩市、稲城市に囲まれた地域である。1970年代に多摩ニュータウンに鉄道が敷かれ住宅地として発展してきた。筆者は10年ほど前に麻生区内に移り住み、この地域の生物相を調査してきた。黒川地区は多摩丘陵の一角で、クヌギ *Quercus acutissima* Carruth やコナラ *Q. serrata* Murray を優先する雑木林が広く分布し、幾筋の谷戸が伸びている。谷戸から流れる水は三沢川としてまとまり多摩川に注いでいる。開発が進んだ現在、かつての薪炭林は宅地に置き換わり、一部が市の緑地里山保全地域として保全されている。しかし、これらも人手が入らず樹は一抱えにもなる巨木になり、林床はアズマネザサ *Pleiblastus chino* (Franch. et Sav.) Makino var. *chino* が人の背丈以上に茂っている。筆者は2012年冬、この地域の谷戸田の跡地を調べていてセンブリ属の幼虫を採集した(図1,2)。同年春、成虫が採集できたのでこれを首都大学東京の林文男氏に標本を送り同定をお願いしたところヤマトセンブリ *Sialis yamatoensis* Hayashi et Suda であることが解った(図3)。

ヤマトセンブリは当地域の2地点で生息が確認できた。センブリの幼虫(図1,2)は放棄された谷戸田跡のヨシ *Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud やガマ *Typha latifolia* L.などの抽水植物が茂り、湧水がある止水域で採集できた(図4)。水量は比較的豊富で水底には深く泥が堆積していて、幼虫はその表面を泳ぐように移動していた。春、3月になると成虫が羽化してくる。気温の低い朝は地表に近い草の上や地面に止まっていて、暖かくなると上空に飛び立っていき近くの小木の先に移動していく。産卵は水辺から張り出した細木やヨシやガマの茎に産み付けられる(図5)。

この地域にはトウホククロセンブリ *S. tohokuensis* Hayashi et Suda も生息している。

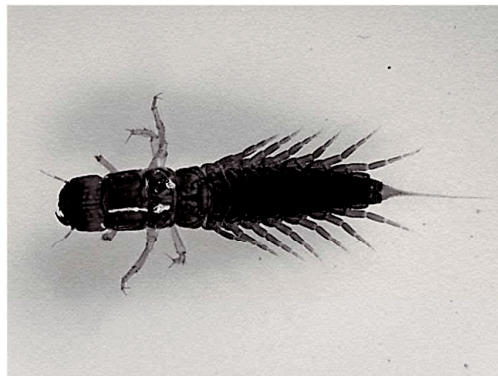


図1. センブリ属の幼虫



図2. 水中を泳ぐセンブリ属の幼虫

図3. ヤマトセンブリ *Sialis yamatoensis* Hayashi et Suda (左: 雄、右: 雌)

\*はるひ野里山学校  
Huhino Satoyama School



図 4. センブリの生息地。抽水植物が茂っている

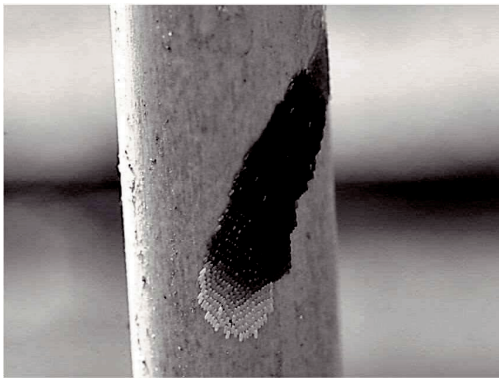


図 5. 産み付けられたヤマトセンブリ *Sialis yamatoensis* Hayashi et Suda の卵塊。

表 1. ヤマトセンブリ *Sialis yamatoensis* Haya shi et Suda の採集記録

年	採集年月日	雌雄
2013	20.III.2013	雌
2014	13.IV.2014	雄 雌
2015	28.III.2015	雄
	6.IV.2015	雌
2016	22.III.2016	雄
	30.III.2016	雌
2017	16.III.2017	雄
	20.III.2017	雌
2018	24.III.2018	雄
	27.III.2018	雌
2019	05.III.2019	雄
	20.III.2019	雌

ヤマトセンブリとトウホククロセンブリはよく似ているが、ヤマトセンブリの体色は赤褐色であるのに対し、トウホククロセンブリは艶がある黒褐色なので比較的容易に区別できるが幼虫での同定は難しい。

表 1 は 2013 年から 2019 年までに採集した日時を記録したものである。ただし、その年の最初に羽化した日時を示すものではない。当地域では同所的にトウホククロセンブリも生息しているが、ヤマトセンブリの方が約 1 週間程度早く発生するようで、ヤマトセンブリとトウホククロセンブリ両種を同時に観察することができる。

### まとめ

ヤマトセンブリの生息地は、里山の環境を保全する緑地保全地域として維持されている。これまで 7 年間の観察からヤマトセンブリは毎年発生が見られ個体数は少ない。現在、各地でアメリカザリガニ *Procambarus clarkia* (Girard) の影響が問題になっているがこの地域も例外ではなく、かつては水面を飛び跳ねるアメリカザリガニが見られたが、里山環境を保全するグルールの活動によってザリガニの駆除が行われていて、根絶には至っていないが一定の成果を上げていて、トンボをはじめ他の水生昆虫も増えてきている。これからもヤマトセンブリとその生息環境を見守っていきたい。最後に、これまで林文男氏には多忙な中、いろいろご教示頂いた。この場をお借りして御礼申しあげる。